

遺伝カウンセラーの育成を推進し 本学から「地域格差ゼロ」を目指す

研究科長就任のごあいさつ

2025年4月に研究科長を拝命しました。正直、うれしさよりも責任の大きさを噛みしめています。静岡県民の皆さんと本学の双方に貢献できるよう、任期の2年間は全力で走り抜きたいと思います。

現在の研究を行うきっかけ

大学卒業後に内科医を志し、研修で尿崩症の患者さんを診た際、ホルモン遺伝子のわずかな塩基変異が重篤な症状を招く事実に衝撃を受けました。その後も内分泌疾患の診療で遺伝病の症例に度々遭遇し、ホルモンの働きを追ううち原因遺伝子へたどり着いて「ここを解けば未来の医療が動く」と確信したのです。以来、遺伝子研究に没頭して取り組んできた経験が、今の私の礎です。

当時は「遺伝の知識が臨床で本当に役立つか?」という疑問もありましたが、この数年で状況は劇的に変化しました。今やがん診療をはじめ多くの疾患で遺伝情報が不可欠となり、若い頃には想像もしなかった新しい景色が臨床現場に広がっています。

遺伝カウンセラーの育成に注力

日本には遺伝カウンセラーがまだ約500人しかおらず、都市部に偏在しています。このままでは住む場所で医療の質が変わってしまいかねません。本学では養成コースを立ち上げており、専門職を地域に送り出すことで「遺伝

静岡社会健康医学大学
博士(医学)

臼井 健 教授

研究分野 ゲノム医学・臨床遺伝学

本学では、精密医療実現のためのゲノム医療の推進及び遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究指導を行う。



医療の地域格差ゼロ」を実現したいと考えています。

パブリックヘルスの未来像

今、ゲノム情報や大規模コホートデータに生成AIを掛け合わせる試みに大きな期待を寄せています。AIが既成概念に縛られずパターンを抽出すれば、従来の定石ではたどり着けなかった意外な関連や病態メカニズムが浮かび上がるはずです。その“思いがけない答え”が視野を一気に広げ、研究と医療を次のステージへ押し上げてくれる。そして、多分野の学生たちが同じキャンパスで議論を重ねることで、こうした発見が化学反応のように連鎖していく未来を描いています。

学生へのメッセージ

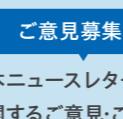
本学には医師、保健師、企業人など多彩な仲間が集います。知識や肩書き以上に、ここで築く横のつながりこそが最大の財産です。異なる視点を持つ仲間と協力し、社会の健康課題に挑む。その経験が皆さんの将来を必ず切り拓いてくれると信じています。

お知らせ

2025年3月

富士市と包括連携協定を締結しました

2025年3月21日、本学と富士市は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与するため、包括連携協定を締結しました。今後健康づくりにおけるさまざまな事項で連携をしてまいります。



ご意見募集中

本ニュースレターに関するご意見・ご要望
などお聞かせください。ご記入フォーム

静岡社会健康医学大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

SPH ACTIONS
vol.05
令和7年度
第1号

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本学は、2021年に開学した社会健康医学を学ぶ大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー(聴覚言語学)について学ぶことが可能で、県内の医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。



学内NEWS

本学の令和7年度入学式を挙行しました。

社会経験豊かな20名が、本学で新たな学びへの晴れやかな門出を迎える

春の柔らかな日差しに包まれた2025年4月5日(土)、本学にて令和7年度入学式を挙行しました。今年度は20代から50代までの幅広い年代の社会人20名(博士前期課程16名、博士後期課程4名)が入学し、会場の空気は期待で満ち満ちていました。

式は開式の辞、入学許可、学長式辞と進行し、来賓として出席された鈴木康友知事、上川陽子衆議院議員、鳥澤由克県議会副議長からは、それぞれ本学と

新入生への激励と期待が述べられ、続いて入学生代表宣誓では参列者からの温かい拍手と共に式場には一体感が広がりました。

本学では、働きながら学ぶ学生を支える柔軟なカリキュラムと、地域に根ざした実践的な学びを提供しています。多様なバックグラウンドを持つ新入生がそれぞれの経験を生かし、地域社会の健康づくりに貢献していく今後の活躍が期待されます。



↑入学生と全教員による記念撮影

→入学生代表で挨拶する渡邊真奈美さん



式典後には記念撮影が行われ、新入生同士や教職員との歓談の中で緊張も和らぎ、学びの第一歩を踏み出す決意を新たにしました。

橋爪秀夫

Hideo Hashizume

令和7年度新体制 教員紹介

少人数制で未来へつなぐ確かな成長力を育みます!



白井 健

Takeshi Usui



木下 和生

Kazuo Kinoishi



栗山 長門

Nagato Kuriyama



小島原典子

Noriko Kojimahara



天笠 崇

Takashi Amagasa



田中 仁輔

Yoshitomo Tanaka



藤本 修平

Shuhei Fujimoto



溝田 友里

Yuri Mizota

■研究指導のテーマ

精密医療実現のためのゲノム医療の推進及び遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究

■研究指導のテーマ

がんや免疫関連疾患の疫学研究、コホート調査で収集する検体を用いた新規バイオマーカーに関する研究

■研究指導のテーマ

長寿・認知症・生活習慣病・骨粗鬆症の予防に関する研究、健康リスクと関連要因の研究、コホート調査研究

■研究指導のテーマ

ガイドライン、システムティックレビュー、携帯電話など電磁界の疫学研究

■研究指導のテーマ

精神疾患の要因解明、職場のメンタルヘルス対策に関する研究

■研究指導のテーマ

コホート研究・臨床データ・SKDB・公的データベースを使用した、さまざまな疾患を対象とした疫学・臨床研究

■研究指導のテーマ

ヘルスケア領域のイノベーション・社会実装研究(産学連携・マーケティング・企業分析等)、EPG、SDM

■研究指導のテーマ

ナッジ等行動科学、行動変容、がん検診・特定健診の受診勧奨、効果的な普及啓発・広報



末岡 浩

Kou Sueoka



菅原 照

Akira Sugawara



高木 明

Akira Takagi



高山 駒子

Tomoko Takayama



森 寛子

Hiroko Mori



佐々木 八十子

Hatoko Sasaki



佐藤 洋子

Yoko Sato



八田 太一

Taichi Hatta



竹内 正人

Masato Takeuchi



田原 康玄

Yasuharu Tabara



古川 茂人

Shigeto Furukawa



堀内 泰江

Yasuee Horuchi



Fehérvári Tamás Dávid

タマス・フェヘルバーリ



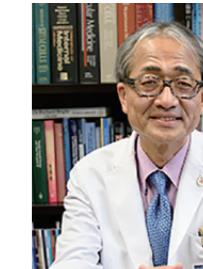
松浦 杏美

Ammi Matsuura



中山 健夫

Takeo Nakayama



副理事長 伊藤 裕

Hiroshi Ito

令和7年度 大学関連行事／年間スケジュール

7月

- 5日（土）オープンキャンパスミニ
- 17日（木）社会健康医学研究成果報告会
- 18日（金）入学希望者向けWeb説明会（修士）
- 26日（土）オープンキャンパス

8月

- 30日（土）オープンキャンパスミニ
入学希望者向けWeb説明会（修士）
- 9月 20日（土）入学希望者向けWeb説明会（博士）
- 26日（金）入学希望者向けWeb説明会（修士）

10月

- （仮称）県民健康講演会
- 29日（水）～31日（金）第84回日本公衆衛生学会総会
(静岡県開催)
- 11月 8日（土）・9日（日）入試（修士）

11月

- 30日（日）入試（博士）
- 12月 中旬頃 静岡社会健康医学セミナー
- 令和8年3月 上旬頃 公開講座
- 28日（土）学位記授与式